

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601197		
法人名	医療法人 ひらつか内科循環器内科		
事業所名	グループホーム 時代 (1階・2階)		
所在地	〒839-0861 福岡県久留米市合川町1547番地1		Tel 0942-31-5699
自己評価作成日	平成30年03月09日	評価結果確定日	平成30年05月01日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは大通り沿いにあり、市内の中心部辺りに位置している。近くには大型の商業施設やドラッグストア、石橋文化センター、高良川、公園などがあり外出や散歩に適した場所である。

職員は利用者さまのできることを大切に、共に笑顔で日々過ごすことを意識しながら関係を築いている。主治医とは24時間の連絡体制を築いており、また協力医療機関の歯科医院による口腔指導もお願いし健康管理に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「時代」は久留米市の中心、久留米総合庁舎の正面に位置する利便性の良い場所に、地域の要望に応じて1年半前に開設された2階建て2ユニットのグループホームである。看護師である管理者と介護職員、母体である医療機関との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。また、運営推進会議を通して地域との信頼関係を築き、地域の行事や活動に参加し、少しずつ交流が始まっている。食事は、献立に沿って配達される食材と、家族から差し入れの旬の野菜等を使って、利用者に手伝って貰いながら職員手作りの美味しい食事を提供している。また、気候の良い時期には、立地を生かした散歩や買い物等に毎日のように出かけている。できる事を大切に、思いに寄り添う介護サービスにより、入居後、みるみる元気になった利用者を見守る家族からは感謝の言葉が寄せられ、信頼関係が築かれているグループホーム「時代」である。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		Tel 093-582-0294
訪問調査日	平成30年04月13日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの基本方針や法人の理念をもとに、開設当初の職員と共に理念を作り、共有を図っている。継続して理念の実践につなげていけるよう今後取り組んでいきたい。	開設時に職員が話し合っただけで決めた介護理念を見やすい場所に掲示している。職員は、利用者の出来る事を大切にして、利用者の笑顔を見られるような関わりを目指している。今年度から各ユニットの目標、個人の目標を立て、理念の実践に向けた取り組みを始めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物での外出の際は地域のかたと挨拶を交わしたり、ボランティアの受け入れや校区の行事への参加などで少しずつ交流を図っている。	運営推進会議の参加委員から情報を得て、校区の情報交換会に管理者が参加してホームの紹介を行ったり、地域の行事に参加する等、地域との交流が少しずつ始まっている。また、ボランティアの受け入れや地域の他グループホームとの情報交換を行なっている。	開設して1年半ではあるが、今後、小・中学校の体験学習の受け入れや、幼稚園・保育園児との交流に向けて、少しずつ取り組んでいく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区内の事業所の意見交換会などに参加させていただき地域での活動の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、民生委員、包括支援センターまた市役所の担当者、県議員、校区の他事業所の方などに来ていただき活動報告を行っている。意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、入居状況、活動、事故等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報提供を受け、意見交換が行われている。参加委員からの情報を得て地域の集まりに顔を出し、餅つきに参加する等、サービスの向上、地域交流に活かしている。	運営推進会議に、年に1回でも家族が参加しやすい日程で開催する事が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、必要時には相談を行いアドバイスを頂きながら協力関係を築いている。	管理者は、ホームの空き状況や事故等の報告、疑問点や困難事例の相談を行政窓口に行い、連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センターや行政の職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていないが、各フロアは電子錠となっており自由に出入りすることができない状況がある。身体拘束ゼロ宣言を行い、研修などに参加させて頂いている。	管理者と職員は、身体拘束の内容とその弊害を認識し、禁止行為の事例を挙げて職員間で話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、玄関の鍵は施錠せずに開放し、各ユニットの入り口は、安全に配慮して電子錠を取り付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修、勉強会に参加させて頂き職員間でも共有し意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時には成年後見制度についてお話をさせて頂いている。これまで成年後見制度の活用をされた利用者の方もおられ、関係機関の方と協力しながら支援を行った。	権利擁護の制度については、入居時に利用者、家族に説明している。制度活用の利用者があるため、制度について理解を深める機会にもなった。また、利用者や家族から相談があれば、関係機関と協力して制度に繋げ、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は入居時十分に説明を行い、疑問点に関しても説明を行い同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望や意見また苦情などは施設長、管理者、職員間で話し合いできるだけ運営に反映できるように努めている。	職員は、利用者と会話する事を心掛け、意見や要望の把握に努めている。また、家族については、面会時や行事への参加時、電話等でコミュニケーションを取り、意見や要望を聴いている。また、出された案件は職員間で話し合い、速やかに運営に反映させている。	家族会を開催し、家族と職員、家族同士が関係を深める機会を設ける事とホーム便りを作成し、家族に利用者の情報が細やかに提供出来る体制作りを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議に参加し、意見や提案があれば施設長と話し合いをもち、反映に努めている。	職員会議をユニット毎に開催し、カンファレンスや研修報告も兼ねている。職員の意見や要望を集約して、ホームの運営や業務に反映出来るよう、努力している。また、職員、リーダー、管理者、施設長が話をしやすい雰囲気の中で意見や提案を表せる、風通しの良い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい勤務条件、職場環境の整備に向け取り組んでいる。できるだけ勤務日数や勤務日の希望を汲めるように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢を理由に排除することはなく、本人の思い、人柄を尊重している。色々な年代の職員がいることでお互いに学びあいながら業務に取り組んでいる。	管理者は、職員の特技や能力を把握して、職員同士が助け合い補い合える職場環境を目指している。また、職員の募集や採用は、人柄や介護に対する考え等を重視し、年齢や性別の制限はしていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加機会を増やし、人権教育に取り組んでいきたい。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や研修の中で話し合い、利用者一人ひとりが持っている個性や生活習慣に配慮した介護サービスを提供している。また、外部から講師を招いて人権研修を開催することを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外での研修の機会をもったり、資格取得のための調整なども行っているが、学んできたことの伝達共有が十分に行えておらず今後しっかり共有を図っていききたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会の研修への参加や、校区の事業所の運営推進会議に参加させて頂いたりして意見交換、相談などをさせていただいている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にお会いさせて頂いたり、またホームへ来ていただいて雰囲気を感じて頂いたりしている。疑問点に関してもお話させていただき、安心につながるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や意向の把握に努め、できるだけ柔軟に対応できるように努めている。安心してサービスの導入ができるよう疑問点に関してはその都度お話させて頂いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用など必要な支援がある場合はご家族とよく話し柔軟に対応するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に生活を送っているという意識を持ち、一つ一つの場面で、利用者さまのできる事を把握し一緒に行動するように努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会時やまたお手紙などでご様子をお伝えしたり、必要時にはご家族にも協力をお願いし共に支えていく関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方の来訪もあつたり、馴染みの美容室へ出かけられたりのご家族の協力も得ながら、関係が途切れないように努めている。	近隣から入居の利用者が多いため、友人、知人の面会が多く、長年の友人との再会を果たした方もいる。家族の協力を得て、馴染みの美容室へ出かけたり、よく訪れていた場所への外出や自宅への外泊等、これまでの関係が継続出来るよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さま同士の関係を把握し、活動や日々の生活のなかでできる事を協力して行ったりと支えあえるような関係づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でもできることがあれば支援を継続していけたらと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者さまの思いや意向の把握に努め、コミュニケーションを図っている。職員間、ご家族でも必要時は話し合いの場を持つなどして共有を図っている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の思いや意向の把握に努め、得た情報は職員間で共有し、出来る事から実現に向けて取り組んでいる。「お茶を教えたい」という利用者の言葉から、毎週日曜日に職員がお茶の作法を学ぶ機会を設けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取り、またこれまで受けていたサービスがあればその状況などを把握し経過や生活歴などの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりの中で利用者さまの有する力を把握するよう努め、維持できるように支援を行っている。いつもと違う様子や変化があれば情報共有し、必要時はかかりつけ医との連携を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見や要望を確認し、6ヶ月に1回は話し合いの場を持ち現状の確認と必要なサービスの確認を行っている。	利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、毎月モニタリングを実施し、利用者の状態変化があれば、家族や主治医と話し合い、利用者の現状に合わせた介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに沿った記録に努めているが、まだ十分に統一できていない部分がある。プランの実践状況などをしっかりと記録に残し見直しに活かしていきたい。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊、ご本人の買い物など柔軟に対応できるようにしている。衛生士による口腔ケアや鍼灸、理美容など希望者の方に利用していただいている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の事業所の集まりや行事、老人会に参加させていただき、地域資源への理解を深めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	理事長が主治医であるため2週間に1回の往診時に情報共有を行い連携を図っている。また利用者の状態に応じてご家族と相談し、以前からのかかりつけ医から継続して医療を受けておられる場合もある。	母体医療法人理事長が主治医であり、月2回の往診とホームの常勤看護師、介護職との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。入居前からのかかりつけ医を家族対応で受診している利用者には、書面での情報提供や必要時には管理者が同行する等している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、状態に変化があれば報告、相談を行っている。必要時には受診を行い主治医や病院との連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族や病院関係者と連携を図っている。ご本人の状況やご家族の意向を把握し早期に退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りに関する指針をご家族にお話しさせて頂いている。状態に変化がある場合は主治医、ご家族とお話をする機会を持ち意向の把握に努めている。	重度化や終末期に向けたホームの方針については、指針を基に、ホームで可能な支援の説明を行っている。開設1年半であり、今後、研修を行い職員のスキルアップを図り、安心して終末期を過ごせる支援を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って対応するように努めている。事故発生時の状況は全員で共有し事故防止に努めている。今後初期対応の訓練など勉強会などの参加を行っていきたい。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと避難訓練を実施した。非常食、飲料水の備蓄を行っている。	消防署の参加を得て、通報と消火、避難誘導の訓練を実施している。住居スペースが1階と2階にあるため、一時避難場所に利用者を誘導し、利用者全員が安全に避難出来る体制を目指している。また、災害時に備えて、飲料水、非常食の準備をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉かけや対応の方法をその都度話し合いを持ち確認をしている。その方に応じた言葉かけを行い安心して生活していただけるよう努めている。	利用者の人格やプライバシーを尊重する介護サービスの在り方を、会議や研修の中で話し合い、利用者の持っている個性や生活習慣に配慮したケアを行っている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても常に話し、確認して取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つひとつの生活の場面や会話の中で、思いを把握したり、利用者が自己決定できるような言葉かけを行うように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるものの、その時の利用者様の状態に応じて、利用者さまのペースに合わせた対応を行っている。昼夜逆転しないように日中の声かけ、活動や関わりをもつように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にホームへ散髪にきて頂いている。またご家族の協力があり外の美容室へでかけられることもある。起床時や入浴後には洗顔や整髪に支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理やつぎ分け、食器洗いや台拭きなど利用者様に応じて役割をもちながら一緒に取り組んでいる。	食事の時間は利用者の楽しいひと時であり、利用者の力に応じて、調理やつぎ分け、食器洗い等に参加してもらっている。献立に沿って配達される食材や家族から差し入れの旬の野菜を使って職員が作る美味しい食事を提供している。	レクリエーションとして、簡単なおやつ作りやホットプレートを利用した調理等、作って食べる楽しみの取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、必要に応じて補助食品の活用などを行っている。栄養士とも連携を図り、食事形態の相談なども行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週に1度、衛生士による口腔指導を受けており指導の下、継続した口腔ケアを行っている。必要時には歯科医院での治療を受けたりと異常の早期発見に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ個人個人の排泄のパターンを確認している。できるだけトイレでの排泄ができるよう、利用者様にに応じて声かけ誘導を行っている。	重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。また、状態を観察しながら、主治医と相談して、排便コントロールを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、牛乳などの乳製品を提供したりしている。また運動を働きかけ運動不足解消に努めている。状態に応じて主治医に相談を行い排便コントロールを図っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行い、午前中午後と実施している。利用者様の状態に応じた支援を行い、ゆっくりと入浴できるように支援している。羞恥心を大切に利用者様に応じては自力で洗えない部分の介助を行っている。	利用者の体調や希望に配慮しながら、週3回は入浴できるように支援している。利用者一人ひとりに応じた支援に努め、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。同性介助の希望を優先して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を特に定めていないが、しっかりと睡眠がとれるよう、睡眠状態や日中の状態を把握している。利用者さまの状態に応じて日中も休息をとって頂いたりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さまの服用している分の薬情はファイルし、常に確認できるようにしている。お薬の変更時もノートを活用し全員で共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味やできる事を活かした関わりに努めている。レクリエーションや季節ごとの行事などを行っている。誕生日には利用者様、スタッフでケーキや歌でお祝いをしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から天気の良い日には散歩に出かけたり、一緒に食材の買い物に出かけたり戸外に出ることを心掛けている。ご家族と協力しながら外出の支援を行っている。	ホーム周辺には、色々な散歩コースがあり、天気の良い日は、よく散歩に出かけている。利用者と一緒に、近所のドラッグストアやスーパーに食材の買い物に出かける等、出来るだけ戸外に出かける機会を設けている。家族の協力を得ての個人的な外出も多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお預かりし、外出時や必要時にお渡しするようにしている。ご家族と話し合いのもとご本人がいくらかを所持される場合もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様希望時には電話をかけて頂いている。またご家族や友人などから電話があった場合も取り次いでいる。携帯電話を持たれ利用されている利用者様もいらっしゃる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や定期的な換気を行い、フロアにはソファを配置し、利用者様が安心してくつろげるよう工夫している。飾りつけでも季節を感じて頂けるよう工夫している。	玄関周りには季節の花を植え、屋内の床や壁等は落ち着いた色調で統一されている。掃除が行き届き、清潔感のある広々としたリビングにはゆったりとしたソファを置いて、利用者が好みの場所で、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さまそれぞれが思い思いの場所で過ごされており、くつろぎながら会話を持たれたりゆつくりと過ごす場所になっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと使い慣れた筆筒を配置されたりご本人の好みのものを置かれたりと、心地よく過ごせるように心掛けている。	利用者が使い慣れた馴染みの家具や寝具、身の回りの物や位牌、家族の写真等、大切な物を家族の協力を持ち込んで貰い、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを分かりやすく表示したり、廊下やトイレには手すりを設置している。日付カレンダーを置いている。毎朝の活動の時間には皆さんで日付の確認を行っている。		